
迷い蛇

ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

迷い蛇

【Nコード】

N8691S

【作者名】

ハル

【あらすじ】

あるところに1人の人間がいた。彼は気がつくと思知らぬ場所にいる。そして見知らぬ人物に憑依していた。その人物は女性で、人間は男だった。

そこは異世界、彼のいた世界とは根本から違う魔法の存在する世界。彼、いや彼女は、その世界でどのように生きていくのか。

これは、そんな彼と仲間たちが繰り広げる悲しくも楽しくて優しい物語――

（前書き）

総合評価100超える

または感想が5人以上から来る

お気に入りが50超える

ストーリーまたは文章評価が50超える

このどれかを満たしたら続きを書く

「……………？ 何処でしょう、ここ」

ふと気が付いたらまったく知らない場所にいた。そんな経験はありますか？ 私は今それを経験しています。

私は先程まで学校の帰り道に親友と話をしながら歩いていたはずなのですが、今は鬱蒼と茂った森と思われる場所にいます………理解できません。

「ふむ、何でしょうね。誘拐や夢の類は無いでしょう。夢と言うにはあまりにも現実的すぎますし、誰も何も無いというのを見ても誘拐では無いでしょう」

私は右手を顎にやって思案してみます。

親友のイタズラ？ 否、ここまで大掛かりなのは不可能でしょう。第一に私の住んでいたところは都市部なのでこんな自然はそれほど離れなければ存在しない。

何かの撮影に巻き込まれた？ 否、それでも周りに人がいないのはおかしい。それ以前にこのように広い森林があれば遠目にも気付くはずだ。

……考えたありませんが、いわゆる神隠しなどといった現象なのでしょうか。世界中にそういった話は確かに実在しますし、戻ってこない人などもいるようです。ですから私もそれに巻き込まれたのでしょうか？

「困りましたね……」

そしてふと気付く。私の声が高いことに、先程から少し目線が高いことに、そして――あるべき場所にあるべき物が無いことに。

それに気付いた私は走り出す。とにかく全力で、姿を確認するものを探しに行く。――その時は夢中で気付きませんでした、私のスピードが尋常でなく、周りの木々が衝撃波でなぎ倒されていくのには気付きませんでした。

そして数分ほど走った頃でしょうか、ようやく私はお目当てのものを見つけました。それはとても美しく、キラキラと日光を反射している湖でした。私はすぐさま駆け寄って覗き込み、自身の姿を見ました。

「……………!!!」

驚愕。空いた口が塞がらないとは正にこの事を言うのでしょうか、私は思わず覗き込んだ体制で呆然としてしまいました。

何故ならそこに映っていたのは……大きな布地で眼を覆った、美しい紫の長髪の、ボディコンを着用した女性だったからです。

困惑する私の頭はただひたすらに色々な事を考える。

（何故こうなったのでしょうか？ 私の名前は月縛天^{つくしばみゃ}。性別は『男』です。……しかし、今の私はどうやら『女』となっているようです。しかもただの性転換などではなく全く別の人物となったところを見るに、憑依といったものでしょうか？ ……というか、この身体は何故目隠しをしているのに外が見えるのでしょうか。不思議な身体ですね。それに先程からとても力が湧いてきますし。あと、何でしょう。何だか身体の中を渦巻くナニカの感覚があるのですが……。不確かで、それでいて明確な存在感を持ったナニカの感覚）

「魔力……？ 何ですかコレは、 ”マスター” ”聖杯戦争”
”偽臣の書” ”間桐桜” ”宝具” ……？」

私の頭に何やら知らない単語がーいえ、既に知る単語となつたのですがー流れてきます。それによるとこの身体はやはり私のものではないようで、かなりスゴイものらしいです。

というかそれ以前に驚いたのは、この身体の本当の持ち主の名がメデューサだと言うのです。

メデューサ。それは古代ギリシャの神話において有名な蛇の怪物の名前。眼を合わせれば石となり、頭には髪代わりに無数の蛇が蠢いているという怪物。……そんな存在に何故、私が成り代わっているのかという疑問は尽きませんが、とりあえず現状の打開にはならなそうです。

しばらくの困惑を置いて私は意識を覚醒させます。先程までの思考の底より戻った私はまず辺りの状況確認をしようとして、右に跳んだ。

おそらくそれはこの身体に染み付いた反射的な動きだったのでしょうが、今の私はそれに心底感謝した。

何故なら私が先程までいた場所にはとても深く刻まれた、文字通り“爪痕”があつたからだ。

「……………何ですか、これ。不思議体験Ver. 憑依の次はVer.

ふしぎ発見ですか」

口調こそ冷静であるが、私の心の臓はとても煩く早鐘を打っている。そんな私の視線の先にいるのは……………小さなライオンとでも形容すべき獣だったのだから。

その状況を第三者が見ればとても微笑ましく映るでしょう。しかし当事者である私からしたらたまったものではありません。何故ならば、その獣――今はちびらいおん、とても呼称しましょう――の身体から放たれた爪が、地面をおよそ直径3〜5mは抉ったのだから。

「これは……………！」

それが眼に入った瞬間、私はそのちびらいおんの懐へと瞬時に潜り込もうとしましたが、そこは野生の獣。天性の勘により後ろへと飛び退いて回避されました。

そしてちびらいおんがかつていた場所に両足をついた私はそちらの方向へと眼をやる。するとちびらいおんはこちらに向かって爪を振るおうとしている所でした。ですから私はとっさにしゃがみ込んで頭上を通り過ぎるのを待ちます。

そうして私の後ろへと飛んで行ったちびらいおんを、私は背後

から思い切り掴んで――そのまま抱き締めました。

何だかちびらいおんが驚いてガウガウ叫んでますが知りません。
私は先ほどあなたを見たときから興奮していたんですから。

「もふもふです……………小っちゃくて可愛いは絶対正義ですよ」

そう。私こと月縛天は可愛いものが大好きなのです。……………女
っぱいとか言った人、少し、顔貸してください。

その後、我を忘れて数十分はモフモフし続けていたら、ちびら
いおんの方も敵意が薄れてきたのかこちらに懐いてきました。具
体的には顔を舐めてくれたりお手してくれたりです。……………なんだか
記憶の中にある“セイバー”さんとイメージが被りました。

すると、

「レグルスー？ 何処行ったのかな……………出ておいでー」

少し遠く、しかし走ればすぐに着きそうな距離から少女の声が
聞こえてきました。その声を聞いた途端にちびらいおんが私の腕か
ら抜け出してその方向へと走って行きました。飼い主でしょうか？

あんなに可愛い生物ですから誰かが飼っていても不思議ではな

いすしね。そう思つてとりあえず私もそちらへと向かいます。

「あつ、レグルス！　もう、何処行つてたの？　心配したんだよ？」

「ガウツガウツ！」

……微笑ましいですね。可愛らしい少女と可愛いちびらいおんの戯れる姿というのは。とても絵になります。私だったら財を尽くして買わせていただきますね、その絵。

「……………ん？」

「おや」

これが、私と彼女——ラナ・クリスティン・フォースターとの初邂逅でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8691s/>

迷い蛇

2011年5月6日08時30分発行